



市税の納め忘れは ありませんか

12月は市税完納強調月間

問い合わせ 納税課(市庁舎2階、**☎**65・4128、65・4129、65・4126)

市では、12月を市税完納強調月間として、夜間や日曜日に相談窓口を開設するほか、市道民税、固定資産税、軽自動車税などの市税を滞納している人に対し、電話督促、訪問督促、財産調査、差し押さえ処分などの実施を強化します。

☆印は8時45分～17時30分
他の平日は8時45分～17時30分

夜間と日曜日に 相談窓口を開設

12月4日から17日まで、水曜日を除く平日の夜間と日曜日に、相談窓口を開設します。仕事の都合などで昼間に相談することが難しい人は、活用してください。
なお、祝日を除く毎週火曜日は、年間を通して夜間窓口を20時まで開設しています。

12月の納税相談窓口日程

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 休み
3 休み	4	5	6	7	8	9 休み
10 ☆	11	12	13	14	15	16 休み
17 ☆	18	19	20	21	22	23 休み
24 休み	25	26	27	28	29 休み	30 休み
31 休み						

開設時間
○印は8時45分～20時



タイヤロックによる自動車の差し押さえ

納税が困難なときは相談を

▽災害や事故、病気、失業など、やむを得ない事情があつて納めることができない▽一度に納めることができない▽などの理由があるときは、放置せず早めに納税課に相談してください。

納期内納付にご協力ください

市税は市の重要な財源であり、健全な市政運営を進めるためにも、納期内の納付にご協力ください。あわせて口座振替をご利用の方は、振替日に残高不足とならないよう確認してください。

平成29年度 今後の市税の納期限

固定資産税(第4期)
平成29年12月28日(木)
市道民税
(普通徴収分・第4期)
平成30年1月31日(水)

コンビニでも納められます

バーコード付きの納付書は、金融機関のほか、セブンイレブン、ローソン、セイコーマート(北海道・関東地区)でも納めることができます。納付書を紛失した場合は再発行するので、納税課まで連絡してください。
※ただしコンビニ各店では、一枚の納付書が30万円を超える場合は納付できません。

市税の納付は便利で確実な 口座振替にしませんか

市税の納付を口座振替にすると、納付する手間が省け、納め忘れもなく便利です。
口座振替の申し込みは、▽振り替えをする預金通帳▽通帳の印鑑▽納税通知書を持って、各金融機関または納税課(ゆうちょ銀行希望の場合は納税課)の窓口で手続きをしてください。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

変化と戦略

帯広市長 米沢 則寿



映えのする絶景や観光名所を撮影するツアーが人気だそうです。

さらに、世界的な女性の社会進出を背景に、女性の一人旅や、社会貢献活動を行うツアーなどの需要があり、日本は、こうした世界の動向に着目した観光戦略を練る必要があると指摘されました。

訪日観光における中国の潜在力の高さを改めて認識させられると同時に、旅行者といえば、働く世代よりも、退職して余裕のあるシニア世代を漠然とイメージしがちな私たち日本人の「思い込み」に、目からうろこが落ちる思いでした。これまで、私たちは台湾からの観光客誘致に取り組み、一定の成果を得てきました。しかし、時代とともに世界の海外旅行者の動向やニーズも変化しており、今まで成功してきたことが、そのまま通用するとは限りません。

雄大な自然と豊かな食。十勝・帯広のど真ん中の地域資源を、さらに魅力ある観光資源に仕立て上げていくためには、これまでと同じ視点、ましてや勝手な思い込みで見ているのは、チャンスや、その本質を見逃しかねません。

今、分かっていることは何か。逆に、分かっていることとは何か。その両方を正しく見極め、現状を正確に把握する。さらに、自分たちの側からだけでなく、外側から、自分たちはどう見えているのか。そもそも競争相手は誰なのか。そして、何よりもどんな「お客様」を迎えようとしているのか、一体「お客様」は誰なのか。

原田さんのエネルギーシチュエーションを通じて、しっかりと戦略を持つことの重要性を改めて考えさせられました。

先日、訪日外国人の旅行ビジネスに精通し、観光庁など、国の検討委員も務める原田劉静織さんのお話を聴く機会がありました。多くの中国人観光客が日本を訪れ、家電製品や高額な商品、化粧品や医薬品、さらには、お菓子に至るまで、日本の商品を大量に買い込む、いわゆる「爆買い」が過ぎ去り、中国人の訪日観光客数も落ち着いたと捉えている方も多いのではないのでしょうか。
中国の海外旅行者は、現在、日本の人口に匹敵する約1億人といわれていますが、中国の人口約14億人のわずか1割足らずであり、5年後には、7億人にまで増加すると、原田さんは予測しています。
また、世界の海外旅行者の主流は、20代から30代の若者となつていて、インターネットを使い、情報収集や発信を得意とするこの世代には、体験型のツアーや、写真